

シラバス参照

精神分析とユング心理学('23)

Psychoanalysis and Analytical Psychology ('23)

主任講師名: 吉川 真理(学習院大学教授)、田中 健夫(東京女子大学教授)

【講義概要】

フロイト(Freud, S.)に始まる精神分析と、ユング(Jung, C. G.)に始まる分析心理学は、分析者と、症状をかかえる被分析者との定期的な面接において生じる治療的な心的変化過程に関する知見をもとに構築された理論体系である。これらの理論は、心理臨床実践の基礎となる知識であり、今日においてもその体系に新たな知見が加えられ発展を続けている。本講義では、精神分析とユングの分析心理学が持つ「人間の心の深層に関する知」の側面と「心理療法学」の側面の両者を視野に入れながら、その基本を理解することを試みたい。

【授業の目標】

精神分析とユング心理学の成立の歴史やその理論の基本を学びながら、心的世界の深層のダイナミズムについて理解を深める。この理解を心理臨床実践の基礎として生かすとともに、受講者自身が、それぞれの人生の意味を認識しつつ心の発達を実現し、自分らしい人生をよりよく生きる力につないでいくことをめざす。

【履修上の留意点】

心理と教育コース開講の「臨床心理学概論('20)」「心理カウンセリング序説('21)」を既に履修していることが望ましい。

各回のテーマと授業内容

メディア	ラジオ
放送時間	2023年度[第1学期](金曜) 10:30~11:15
単位認定試験日/時間	2023/07/20 2時限 (10:25~11:15)
学部・院	教養学部
科目区分	('16カリ) コース科目 専門科目 心理と教育
科目コード	1529722
ナンバリング	320
単位数	2単位
単位認定試験平均点	
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

第1回 精神分析とユング心理学—その出会いからそれぞれの展開へ

精神分析とユング心理学は、自分自身の心を見つめ、その無意識と意識のあいだに生じる相互作用に着目する心へのアプローチである。ユングとフロイトの出会いから訣別までをたどりながら、二人の間に何が起こったのか、精神分析とユング心理学の理論やアプローチの相違点を理解し、それぞれの理論の発展過程を概観する。

【キーワード】

フロイトとユング、精神分析、分析心理学、無意識、転移、リビドー、欲動

執筆担当講師名: 吉川 真理(学習院大学教授)

田中 健夫(東京女子大学教授)

放送担当講師名: 吉川 真理(学習院大学教授)

田中 健夫(東京女子大学教授)

第2回 精神分析臨床がめざすもの

精神分析は治療実践であるとともに、人間の心に関する理論の体系である。精神分析臨床は何をめざすのだろうか。フロイトが取り組んだヒステリーの治療とは、そして精神分析を特徴づける「転移」とはどういうものかを、現代の臨床とも照らし合わせながら紹介する。

【キーワード】

精神分析と精神分析的な心理療法、ヒステリーの治療、技法、転移

執筆担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

放送担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

第3回 無意識という心の生活

無意識を知る手がかりは「夢」であったり、何かが失われるという対象喪失の経験であったりする。フロイトがみいだしたエディプス・コンプレックスの意義を含めて、無意識という心の生活の奥行きを提示する。

【キーワード】

無意識、夢、エディプス・コンプレックス、対象喪失

執筆担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

放送担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

第4回 心の構造をとらえる

フロイトは、心のはたらきや構造をどのようにとらえたのだろうか。心のモデルである局所論と構造論を紹介し、快原理・現実原理を説明する。そして、不安から心を守る自我のはたらきである防衛機制、心の組織化の問題を論じる。

【キーワード】

自我、エス、超自我、快原理と現実原理、自我の防衛機制

執筆担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)
放送担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

第5回 精神分析における心の発達論

精神分析による心の発達のとらえ方は、欲動中心から二者関係の視点、環境との相互作用をふまえた発達論へと展開している。親(養育者)との情緒交流を通じた自己の形成、その不全が精神病理に及ぼす影響についても検討されてきた。空想や不安の質をみきわめて関わっていくときに、発達論が理解の基盤を提供する。

【キーワード】

精神-性的発達論、発達ライン、ポジション論、分離-個体化、自己感の発達

執筆担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)
放送担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

第6回 内的世界の理解: 対象関係論

「対象」というと自分の外側にある物や相手をイメージするだろうが、対象関係論では主に「内的対象」を指す。私たちの心のなかの「自己-対象」表象の性質が、現実のできごとや対人状況を意味づけるという考え方である。言語では掬いきれない体験水準のことを説明するのは難しいが、対象関係論の考え方とその臨床的な意義をみていく。

【キーワード】

対象関係論、内的対象、表象、無意識的空想、思考の生成、コンテイング

執筆担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)
放送担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

第7回 精神分析的な心理療法の実際

精神分析的な心理療法はどのように開始され、どのように終わるのか。そのプロセスでは何が起って行くのだろうか。治療的な変化を引き起こす機序、困難な事例へのアプローチ、精神分析との違いなど、精神分析的な心理療法の実際にまつわるテーマを考えていく。

【キーワード】

アセスメント面接、マネジメント、試みの解釈、治療機序、解釈、ワーキングスルー

執筆担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)
放送担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

第8回 精神分析の展開と応用

精神分析は、現在どのような展開をみせており、臨床的な応用がされているのだろうか。さらには、精神分析的アプローチの治療効果にまつわるエビデンスの問題、精神分析をいかに学んでいくかというテーマも扱っていくことにする。

【キーワード】

関係論、日本の精神分析、メンタライゼーション、乳児観察、エビデンス、個人分析

執筆担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)
放送担当講師名: 田中 健夫(東京女子大学教授)

第9回 近代的パーソナリティ研究の先駆者としてのユング

C.G.ユングは、近代におけるパーソナリティ研究の先駆者の一人である。言語連想実験を活用して、無意識の作用を実験精神医学の手法によって証明する研究を行い、そこで見出されたコンプレックス概念により、フロイトの「抑圧」概念を裏付けた。さらに、『心理学的類型論』は、人間のパーソナリティの多様性をとらえる視点を提供しており、その後のパーソナリティ研究に多大な影響を与えている。

【キーワード】

タイプ論、言語連想実験、コンプレックス、外向—内向の軸、心の4機能

執筆担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)
放送担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

第10回 ユングのとらえた自我と無意識の相補的關係

フロイトの精神分析が自我の発達を重視するのに対してユング心理学では、自我と無意識の間の相互作用やその間に生じる補償といったダイナミックな現象に着目している。フロイトの精神分析においては、無意識とは、意識から抑圧された個人的無意識をさすが、ユング心理学では時代や文化を越えて多くの人に共有される普遍的な無意識に焦点があてられる。

【キーワード】

自我、意識、個人的無意識、集合的無意識、補償機能

執筆担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)
放送担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

第11回 ユングによる無意識の探求—集合的無意識の発見

ユングは、クライアントの夢や幻想の理解において、神話や昔話のモチーフを根拠として用いた。それらのモチーフの生成に関わる集合的無意識に存在するイメージの枠組みは元型と名付けられた。時代や地域

を超越して私たちの心に共有される集合的無意識には、多くの元型が存在しており、心の変容において重要な役割を果たしている。

【キーワード】

夢、ヴィジョン、神話、昔話、集合的無意識、元型

執筆担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

放送担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

第12回 ペルソナ形成と影の出現

ユングは人が社会の要請に応じながら自分の人生を生きていくときに引き受ける役割をペルソナと名付けた。社会生活においてペルソナは不可欠だが、ペルソナと自我との同一化は危険である。一方、人目には伏せておきたい人格のネガティブな部分の総体は影と呼ばれる。私たちは、ペルソナや影どのように付き合っていけばよいのだろうか？

【キーワード】

ペルソナ、ペルソナとの同一化、影、集団における影、自己認識

執筆担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

放送担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

第13回 心の中の異性像アニマ/アニムスがもたらす心の発達過程

心は本来全体的であるとするれば、ペルソナが男性—女性軸のうち的一方にかたよって形成された場合、生きられていない心の側面は、心の内なる異性像、アニマあるいはアニムスと呼ばれ、外的な人物に投影されることが多い。この心の内なるアニマ/アニムスの存在や、これを投影された外的な人物との出会いや関係性は、心の発達のプロセスにどのようにつながっていくのだろうか？

【キーワード】

アニマ、アニムス、男性—女性軸、異性像、個性化

執筆担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

放送担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

第14回 ユングの個性化理論—自己を生きるということ

ユングは、個性化を人生の目的と考えた。個性化とは何か？ユング自身の個性化に関する記述をたどりながら、ユング派の分析家、心理療法家による理解を紹介しつつ、個性化過程において心理療法が果たす役割についてあきらかにする。

【キーワード】

個性化、自己、錬金術研究、転移、結合

執筆担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

放送担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

第15回 ユングの心理療法とその技法の展開

ユングの分析心理学理論は、実験精神医学を起点として、自らの心と向き合う作業、広範な文献研究、さらにクライアントとの分析という共同作業により構築されてきた。ユングは、心理療法の実践において、そのプロセスをどのように理解し、どのような方向性を見出してきたのだろうか。彼の試みた心理療法の技法は、その後のユング派において、どのように展開されてきたのだろうか。

【キーワード】

転移、変容、意識化、個性化、夢の分析、アクティブ・イマジネーション、箱庭療法

執筆担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

放送担当講師名: 吉川 眞理(学習院大学教授)

戻る